

# 狭山にゆかりのある文化人紹介 その19

はっとり まさし

トリック3Dアート作家

服部 正志

1962(昭和37)年～

## 1. 経歴・狭山市との関わり

名古屋市で生まれる。狭山市広瀬台在住。1987(昭和62)年多摩美術大学 絵画科卒業。小学生の頃、絵画コンクールに入賞したが、その後絵に対して特別な思い入れはなかった。絵の勉強を始めたのは美大を目指すための予備校に通うようになってから。多摩美術大学の絵画科に入学。卒業後は壁画を描いたりデパートのオブジェを作ったりしていたが、転機になったのはトリックアートの仕事が依頼されたことである。「アートの中に観覧者が被写体となって入り、錯覚を楽しんでくれることがとても面白かったし、自分ならもっとうまく作れると思ったからです」と、服部氏は述べている。2023(令和5)年3月18日～5月14日、狭山市立博物館で「わくわくトリック3Dアート展～魔法の絵画の世界～」を開催し、市内外を問わず多くの市民でにぎわった。



## 2. 主な業績

2010(平成22)年からトリック3Dアートのイベントを展開している。派手なトリックと斬新な表現で国内を代表するトリック3Dアート作家として知られるようになり、海外のメディアにも数多く取り上げられている。



絵画と人が一体化し立体的に見える  
不思議なトリック3Dアートの世界

- ・2005年 JR 甲賀駅に忍者のトリックアート7点制作。
- ・2011年から国内数カ所で「古代エジプトトリックアート展」、国内100カ所超で「服部正志作トリックアート展」「トリック3Dアート展」「魔法の絵画展」開催。
- ・2012年大阪市で250坪の規模の企画展を開催。
- ・2017年川崎市市民ミュージアムの「服部正志トリック3Dアート展」が海外のメディアに取り上げられる。
- ・2018年川越市元町に「ミュージアム・トリック3Dアート in COEDO」、ドイツのハンブルグ市とロストック市に「服部正志トリック3Dアート館」開館。
- ・2024年ベルリン市に常設館をオープン予定。

## 3. 特筆

15年の歳月と150点以上の作品制作を通して、最高に工夫を凝らしたトリックアートを作っていると自負する。ドイツに常設ミュージアムが2館あり、目標は大好きなパリ市でもミュージアムを出すことである。川越市の蔵造りエリアにあるミュージアム「トリック3Dアート in COEDO」で作品を楽しむことができる。

〈参考資料〉「広報さやま」2023年4月号、狭山市立博物館展覧会資料 文責:小川 豊子

## 編集後記

- ★定期総会出席も多く、来賓も議事まで残って聞いていただいた。会員の年齢と減少で退会する団体があったとの報告。実は私も30年所属した民謡協会が会主の年齢、会員の減少で民謡協会を退会しました。私は文団連には残り、理事今年はやりますが、民謡協会からは離れました。残念です。
- ★青少年文化体験フェスタは連日の猛暑の中でも子供たちは元気に欠席も少なく、中学生ボランティアには助かりました。今年は充実した講座、新体験として、笹井足踊り保存会では太鼓、足踊り、鉦、ひょっとこ踊りまで。子供たちの熱心さに教える保存会も楽しそう。古典芸能に関心のある私も、もっと前からやりたかったと感激。カーレット体験会も学校対抗まで盛り上がっていた。新しい文化体験を見つけていくのも継続につながると思う。

(高沢正夫)



文団連HP  
www.bunren.org